

2・20 才二回支部対抗駅伝大会 館山支部が堂々の優勝

勤労千葉サークル協主催、第一回支部対抗駅伝大会は、二月二十日、天台スポーツセンターに十一チーム七〇名が参加して開かれ、地力にまさる館山支部が堂々初優勝を飾りました。

小雪が千々千と舞う中、水野副委員長のあいさつをうけ、開会式。館山チームの堀海選手の選手宣誓で熱戦の幕がきざれておとされた。

自前の力でかちとった大会

大会当日は、二日前の大雪が残る悪コンディションの中、参加者総出で走路整備を行い、十時三十分開会式が始まりました。

本部を代表して水野副委員長は、「全員で雪かきを行い大会を実現させた力こそ、勤労千葉の『自前の労働運動』に他なりません。この団結力で3・25三里塚への五割動員を実現しようではありませんか」とあいさつしました。つづいて、藤浪審判部長から諸注意をうけた後、堀海選手（館山）が「勤労千葉精神にのっとり正々堂々闘う」との力強い選手宣誓を行い、十一時、林サークル協事務局長の号砲一発、三千三百メートルのコースにむけ全チーム一斉にスタートを切りました。

終始トップの館山チーム

一区一藤浪選手（館山）が二位鎌形選手（新小岩A）を一分二十秒あまりも引き離して第二走者へ引き継ぐ。三位関選手（本部）につづき、大会最年長の武井選手（新小岩B）が四位に入る健闘。以下、木更津、蘇我、千葉転とつづく。

二区一加藤選手（館山）を追う後続集団は、二分四十秒遅れて重見選手（本部）が二位、目良選手（蘇我）が三人抜いて三位にあがる。河原選手（新小岩A）は四位。大里選手（成田）が四人抜く健闘で五位に進出。木更津、千葉転、佐倉、新小岩Bが十秒内の差で一団となって入る混戦。三区一赤羽根選手（館山）は二位との差を四分三十秒と引き離す。久田選手（新小岩B）が七人抜く大健闘で二位。三位も新小岩Aの小島選手と続き、百瀬選手（佐倉）が頑張り四位に入る。四区一吉田選手（館山）のトップは続くが、高橋選手（蘇我）が十分五九秒の区間第二位の記録で猛迫し、一躍二位へ。三位堀口選手（佐倉）、四位柴崎選手（新小岩B）と続く。三区まで十位の津田沼は、石井選手の健闘で七位へと挽回。五区一堀海選手（館山）断然強く、区間新記録の十分十一秒で、続く第二位笹生選手（蘇我）を六分近く離して堂々のゴールインで歓声に迎えられた。二位は、青年部員の若手をそろえた蘇我。三位は、新小岩勢の争いとなり、先輩組の松本選手（B）が青年部の小作選手（A）を押さえて入賞。

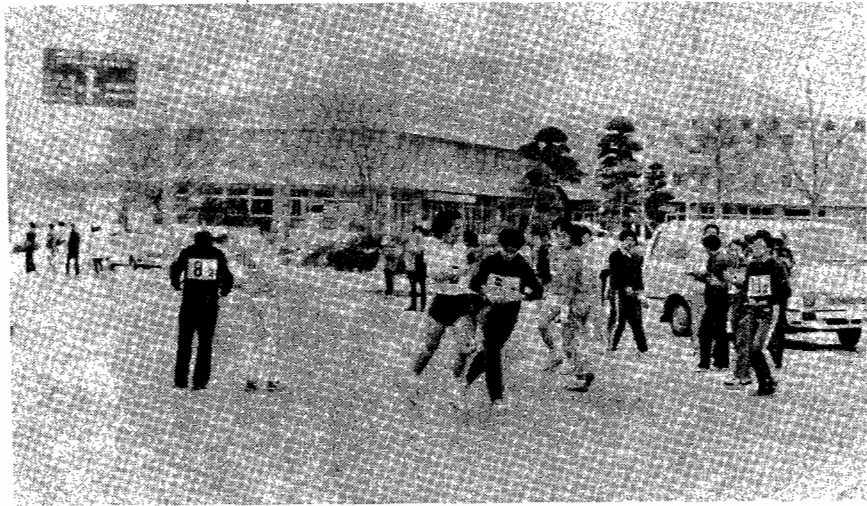
五位に室岡選手（佐倉）、六位に影山選手（津田沼）が入り、木更津、千葉転、成田は惜しくも入賞を逸す。

入賞チーム全員にメダル

最終ランナーの関根選手（幕張）がテープを切り、競技を無事終了、全員が心づくしの甘酒に舌鼓をうち、直ちに表彰式に移りました。

水野副委員長が全員の健闘をたたえ、入賞チーム全員にメダルを手渡しました。参加者は次回大会での奮闘を期し、団結ガンバローをもって大会を成功裡に終了しました。

（各チーム成績表は裏面に掲載）



3300メートルを走りぬいて才2区間走者に引き継ぎ。